

(埼玉県委託事業)

平成28年度

「薬局のかかりつけ機能の強化事業」

～同行訪問（OJT）による在宅訪問薬剤師の育成～

報 告 書

平成29年2月

一般社団法人埼玉県薬剤師会

目 次

第 1 章 事業の概要

1 背景	1
2 目的	2
3 実施方法	2
(1) 在宅に係る経験豊富な薬剤師を講師として養成するための研修会の開催	
(2) 養成研修会を受けた経験豊富な薬剤師の同行訪問（OJT）による実践形式の研修の実施	
(3) 報告書の作成、アンケート調査の実施	

第 2 章 事業実施の結果・検証

1 同行訪問（OJT）の実施結果	4
2 報告書及びアンケート結果について	4
3 結果に基づく検証・考察	11

第 3 章 事業実施の効果と課題

1 効果	12
2 課題と今後の取組み	12

第 4 章 資料

1 募集リーフレット	14
2 OJT 報告書	16
3 OJT 同行訪問実施後アンケート	17
4 在宅訪問薬剤師講師一覧	20

第1章 事業の概要

1 背景

埼玉県の高齢化は、全国で最も早いスピードで進行しており、75歳以上の高齢者数は2025年には現在の約1.6倍の121万人になると見込まれている。

超高齢社会に対応するためには、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を構築する必要がある。

平成27年10月に厚生労働省が策定した「患者のための薬局ビジョン」には薬局の持つべき3つの機能 ①服薬情報の一元的・継続的把握 ②24時間対応・在宅対応 ③医療機関等との連携 が示されており、2025年までにすべての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指している。

一般社団法人埼玉県薬剤師会では、地域包括ケアシステムの中で、かかりつけ薬局が服薬情報の一元的・継続的把握や在宅での対応を含む薬学的管理・指導などの機能を果たすべく、地域で暮らす患者本位の医薬分業の実現に取り組んでいる。

平成26年度から埼玉県から事業を受託し、在宅医療を担う薬剤師の育成事業として県内東西南北の各地区で在宅医療に係る5段階の基礎講習会（ステップアップ講習会）を開催し、在宅医療を担う薬剤師887人を育成してきた。

平成28年度に実施した同行訪問（OJT）による薬剤師の育成事業は、
①ステップアップ講習会を活かした実践的な研修ができる
②在宅医療においてかかりつけ薬剤師に求められる役割、どのような職種とどのような連携が必要かを在宅経験の少ない薬剤師が知ることができることから、「患者のための薬局ビジョン推進事業」として実施したものである。

ステップ1	在宅薬学管理（初めての訪問）
ステップ2	在宅薬学管理（アセスメント）
ステップ3	緊急時等共同指導
ステップ4	無菌調剤実習
ステップ5	緩和ケア

2 目的

在宅医療においてかかりつけ薬剤師に求められる役割、どのような職種とどのような連携が必要かについて、在宅に係る経験の少ない薬剤師が経験豊富な薬剤師と同行訪問（OJT）する実践形式の研修を実施することにより具体的な方法等を直接知ることができるものである。

3 実施方法

(1) 在宅に係る経験豊富な薬剤師を講師として養成するための研修会の開催

①開催日時

平成28年9月25日(日) 10時～11時30分

②開催場所

ウエスタ川越（川越市新宿町1-17-17）

③研修の概要

- ・趣旨説明
- ・指導内容、評価方法、実施報告について
- ・グループディスカッション

④受講者

ア 要件

実務実習指導薬剤師であって、在宅医療の実績がある者

イ 募集方法

7月24日開催の薬学生実務実習受入薬局講習会で同行訪問（OJT）の講師募集

リーフレットを用いて趣旨を説明して講師を募った。

ウ 受講者数

23人

(2) 養成研修会を受けた経験豊富な薬剤師の同行訪問（OJT）による実践形式の研修の実施

①開催時期

平成28年10月1日（土）～平成29年2月2日（木）

②講師と受講者のマッチング方法

県内を東西南北4つのブロックに分け、ブロック長を決めて受講者を振り分けた。

③研修の概要

パターンA：講師薬剤師の担当する在宅（居宅）患者宅を訪問する

パターンB：受講薬剤師の担当する在宅（居宅）患者宅を訪問する

④受講者

ア 要件

在宅訪問の未経験、又は経験の浅い薬剤師

イ 募集方法

受講希望者を募るリーフレットを作成し、FAX、薬剤師会報及びホームページで募集した。

ウ 受講者数

78人(申込者84人)

(3) 報告書の作成、アンケート調査の実施

研修実施後、講師薬剤師は報告書を作成して薬剤師会に提出した。受講薬剤師には報告書の提出を求めるとともにアンケート調査を実施した。

研修内容の統一化を図るため、講師薬剤師と受講薬剤師、両者とも同じ報告書様式を使用した。

第2章 事業実施の結果・検証

1 同行訪問（OJT）の実施結果

講師は1人が複数回訪問に同行した（1回～6回/人）。

受講者は1人1回の受講とした。

パターンA（講師薬剤師の担当する在宅（居宅）患者宅を訪問）：77人

パターンB（受講薬剤師の担当する在宅（居宅）患者宅を訪問）：1人

[訪問先別受講者数]

患家	58人	} 居宅療養管理指導を実施
施設	13人	
患家と施設の両方	6人	

患家 1人 在宅患者訪問薬剤管理指導を実施

[研修項目]

- | | |
|---------------------------|----------------|
| ・ 契約書の交わし方 | ・ 残薬の整理の方法 |
| ・ 服薬管理方法の提案 | ・ 服薬内容の検討 |
| ・ 服薬状況の確認と体調の変化の確認 | ・ 療養環境の把握 |
| ・ 他のサービス内容の確認 | ・ ケアマネの確認 |
| ・ 嚥下状態の確認 | ・ 報告書・薬歴の作成方法 |
| ・ 医師やケアマネなど多職種とのかかわり方について | ・ 一部負担金の受け渡し方法 |
| ・ 残薬の保管方法 | ・ 輸液の適正使用 |
- (該当ある場合)
- ・ 麻薬の適正使用

2 報告書及びアンケート結果について

(1) 同行訪問（OJT）報告書

講師、受講者から報告書が提出された（78例）。

ア 薬局における研修

患者宅の同行訪問の前後に、講師から受講者に対して在宅患者訪問にあたっての必要な手続き（契約書やサービス内容の説明等）、医師等に対する報告書の書き方、訪問先の施設や患者の状況などについて説明した。

イ 同行訪問先での実地研修（報告書の内容から）

- ・ 講師、受講者及び訪問先の都合から、訪問先（介護施設又は個人宅）や訪問時間、在宅患者の状況などは様々であった。
- ・ 医師の往診に同行した例も数件あった。

- ・ 施設における多職種の会議に同席し、患者の生活状況について把握できた事例があった。
- ・ 施設職員など多職種連携の様子を見ることができた。
- ・ 多職種との情報の共有、連絡方法を学ぶことができた。
- ・ 患者、家族との話し方や患者の思いを知るためのコミュニケーションの取り方が理解できた。
- ・ 短時間で効率的に患者の体調や生活状況の確認、認知状況等を会話の中から把握し、医師等に素早く的確に情報提供できた。
- ・ 患者への聞き取り、残薬確認等服用状況から医師に処方変更の提案をして患者の服薬コンプライアンスが上がった。
- ・ これから入院手術予定の患者情報の提供など薬薬連携を実施した。
- ・ 外来患者以上に一人ひとりの生活状況にあった薬の管理方法を提供できた。
- ・ 薬剤師が関わることで、患者や施設のニーズに合わせた薬のセット方法が施された。薬の管理方法にアイデア、工夫が見られた。
- ・ 麻薬の管理方法について実習した。
- ・ バイタルチェックの取り方や評価の仕方がわかった。
- ・ 体調の確認、残薬対策を実施し、服薬コンプライアンスの向上に向けた工夫をした。
- ・ 嚥下状態についても食べている様子などから確認できた。
- ・ 精神科領域の在宅医療の役割を知ることができた。
- ・ 疑問に感じていたことを直接聞くことができた。患者をつなげる先、何でも聞ける先ができた。
- ・ 介護の実態がつかめた。在宅のイメージがつかめた。
- ・ 緩和ケアへのかかわり方を学び必要性を感じた。
- ・ 在宅における薬剤師の意義を感じた。
- ・ 多剤併用から脱却できることが素晴らしいと感じた。
- ・ 自宅へ上がることは、相手の心の中に上がることである。表面上のこと、薬のことだけでなく、困っていること、向かい合っていることを理解するための会話が大切だと感じた。
- ・ 多職種への情報のフィードバックが大切であると感じた。
- ・ 患者との距離が近く、薬剤師が身近な存在であると感じた。
- ・ 生活のすべてに気を配る必要があると感じた。
- ・ わかりやすく説明することが大切で、患者だけでなく家族の支援も必要であると感じた。
- ・ 自分も在宅で見た方が良いと思っている患者がいるので、進めていきたいと思った。

ウ 患者への対応や多職種連携を行った具体的な報告事例

A (パターンA) 88歳男性 配偶者と同居 介護度5
肺アスペルギルス・肝細胞がん・慢性C型肝炎
1包化 朝(赤)夕(青)カレンダー使用

当初は分3毎食後処方。昼の残薬多数から医師に処方変更提案。現在の朝夕処方になる。

訪問時、屯用カロナール・オキノームの使用量・使用方法と残数を確認。合わせて体調の変化を確認。

緩和ケアにおける関わり方、薬剤師の役割について学ぶ。

医師・ケアマネ・訪問看護と連携し情報共有することで在宅生活を支えていることも学ぶ。

B (パターンA) 92歳男性・有料老人ホーム・介護度2
心房細動によりワーファリン服薬

入所前ワーファリン2mg服用。入所後コンプライアンス良好になり1.5mgに減量。夜間、覚醒時に痛癢をおこし抑肝散服薬。

効果を認めるもむくみが現れる。代替えデパケンRを医師に推奨し変更になる。デパケン併用によりワーファリン増強(PT-INR1.6→2.6) ワーファリン減量を医師に提言。

医師・施設職員との協働による現場での素早い対応により薬剤師の役割を学ぶ。

C (パターンB) 86歳男・介護度2
患者さんの思いや希望が聞き出せない

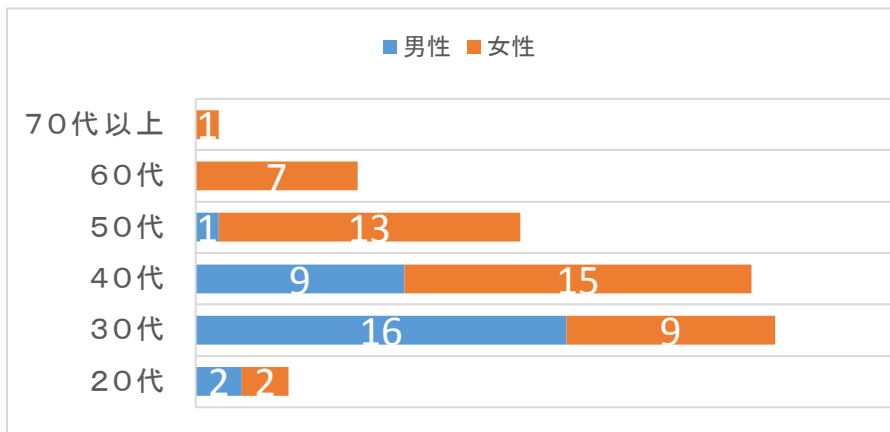
受講薬剤師が訪問していた患者。患者とコミュニケーションの取り方が分からず悩んでいた。講師薬剤師と同行訪問にて実際に患者さんの思いを聞くことができた。その思いに応じるための多職種との連携や協働方法も学んだ。

(2) アンケート結果

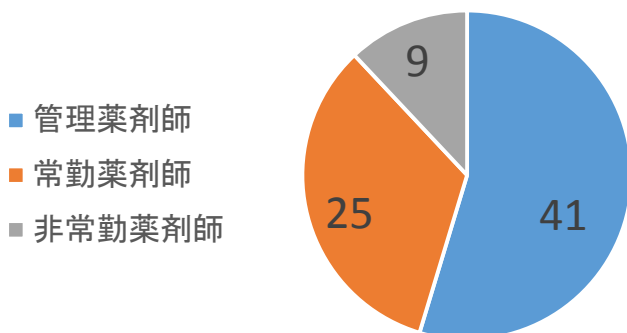
- ・ 受講者アンケート回答者75名のうち、その半数以上の44名が在宅医療に対して経験がなかった。
- ・ OJT研修を受けて、在宅医療にこれまで以上に組みたいと『思った』『やや思った』人数の割合は、93.4%。多職種連携をこれまで以上に組みたいと『思った』『やや思った』人数の割合は、94.6%であった。
- ・ 患者の情報を把握する能力が向上したと『思った』『やや思った』人数の割合は82.6%。多職種と連携する能力が向上したと『思った』『やや思った』人数の割合は、69.3%であった。
- ・ 患者や患者家族等とのコミュニケーション能力の向上については、『変わらないと思う』が40%近くであった。
- ・ 無菌調剤の積極的取り組みについては、今回のOJT研修では「在宅医療においてかかりつけ薬剤師に求められる役割、どのような職種と、どのような連携が必要かを知る」に主眼においたためか、『変わらない』、『わからない』が65.3%となった。
- ・ 今後、在宅訪問したい、または心あたりのある方はいますかでは、『いる』が61.3%であった。

A - 薬剤師属性

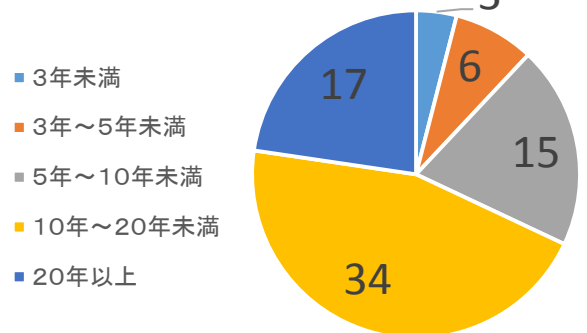
Q 1. 2 性別と年代



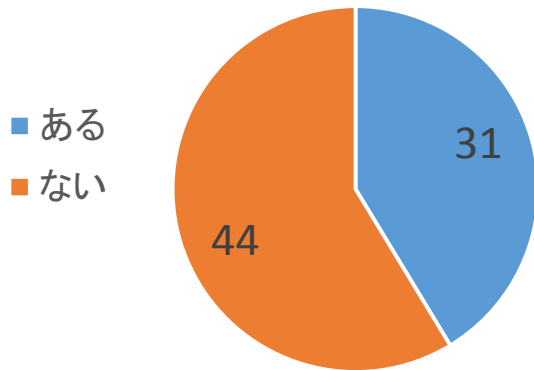
Q 3 職種



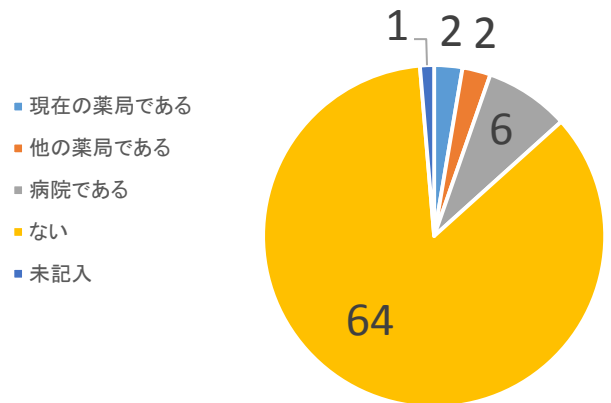
Q 4 薬局での勤務年数



Q 5 在宅患者訪問薬剤管理
指導の実施の有無



Q 6 無菌調剤の実施の有無

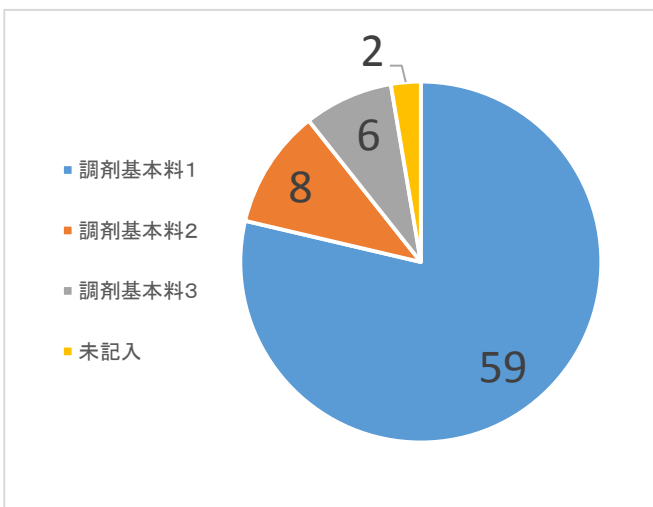


B - 薬局属性

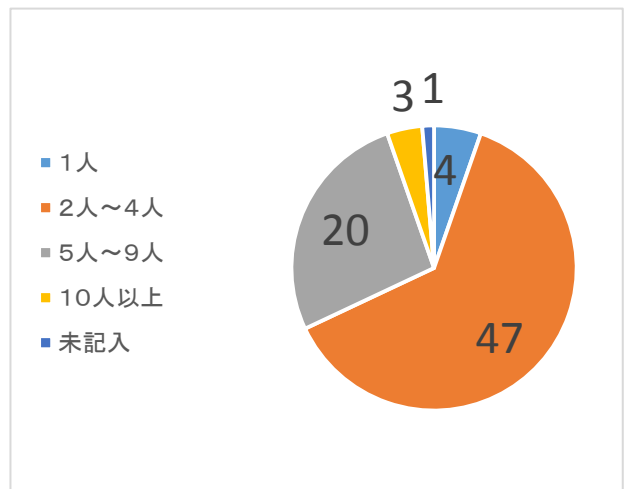
Q 1 勤務している薬局の所在地

さいたま市	12	狭山市	2	新座市	3
熊谷市	4	羽生市	3	久喜市	1
川口市	7	鴻巣市	1	八潮市	1
秩父市	5	深谷市	1	幸手市	2
所沢市	4	上尾市	2	三郷市	1
飯能市	1	草加市	3	ふじみ野市	2
加須市	4	越谷市	1	白岡市	1
本庄市	2	志木市	1	伊奈町	2
春日部市	4	和光市	1	宮代町	4

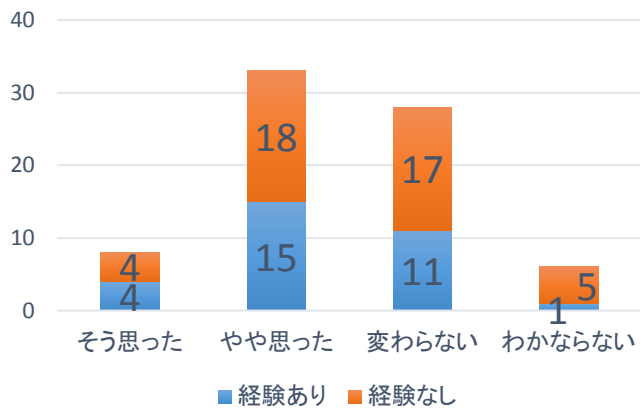
Q 2 調剤基本料の区分



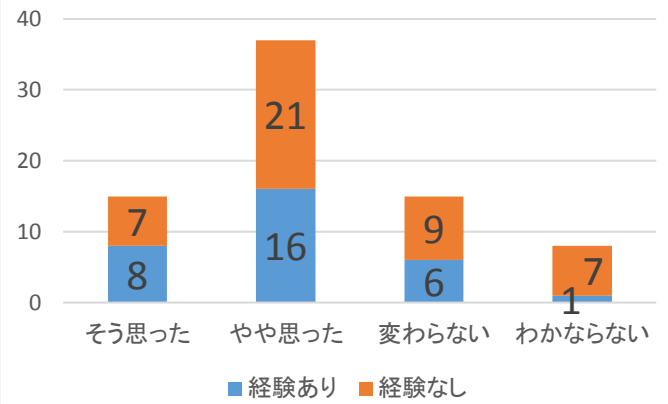
Q 3 勤務薬剤師数



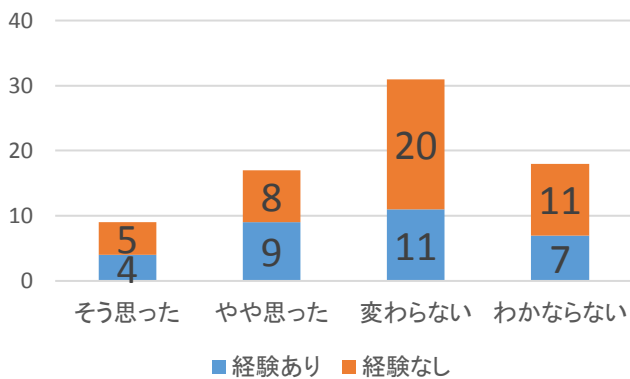
Q5 患者家族等との
コミュニケーション能力が向上した



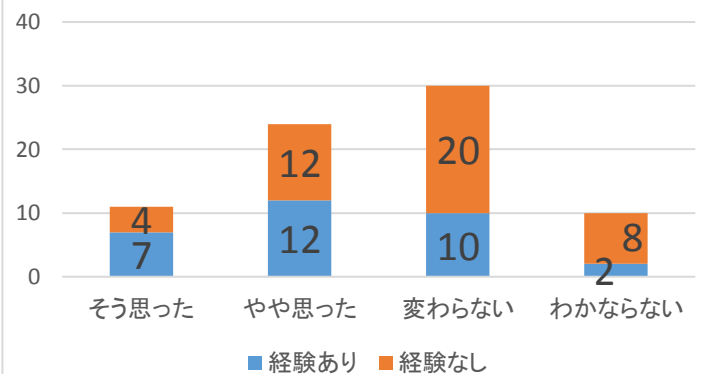
Q6 多職種との連携する
能力が向上した



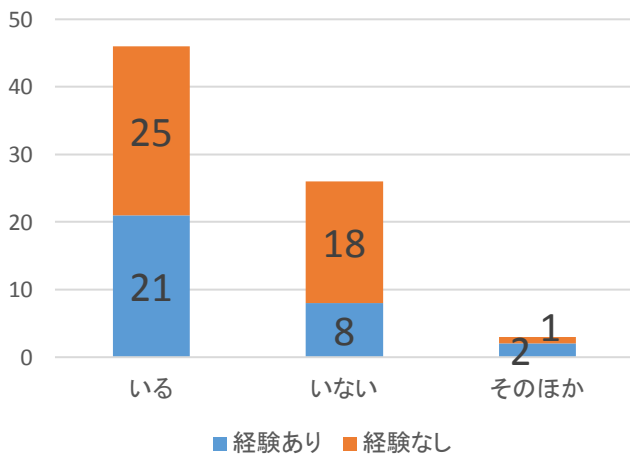
Q7 無菌調剤に対してこれまで
以上に積極的に取り組みたい



Q8 衛生材料等の供給について
これまで以上に積極的に取り組みたい



Q9 在宅訪問したい
または心あたりのある方はいますか

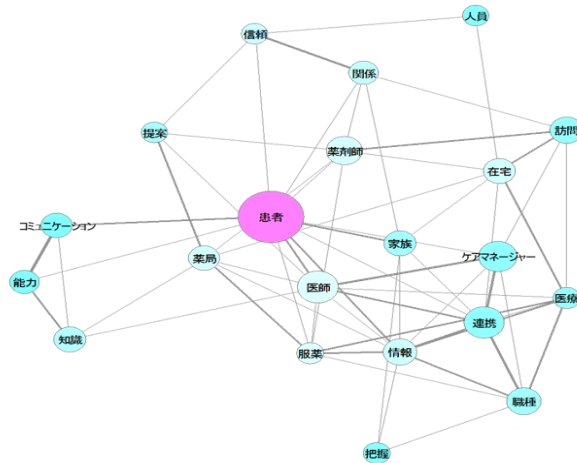


[主な記述]

Q 在宅訪問を始めるにあたり、どんなことが必要だと考えますか。

- ・ 医師、ケアマネジャーとの連携
- ・ コミュニケーションの能力や薬学的知識
- ・ 患者や家族との信頼関係
- ・ 対応できる人員配置

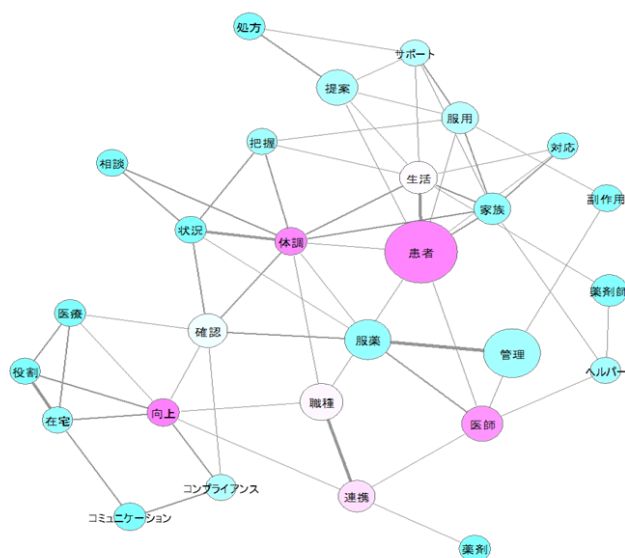
テキストマイニングによる共起ネットワーク



Q 在宅医療において、薬剤師にどのような役割が求められていると思いますか

- ・ 医師との連携
- ・ 患者の体調の把握
- ・ 服薬の管理や副作用の確認
- ・ 服薬コンプライアンスの向上
- ・ 患者の生活のサポート
- ・ 処方の提案

テキストマイニングによる共起ネットワーク



[在宅に関わるかかりつけ薬剤師に対する受講者の意見]

- ・地域の中で在宅訪問薬剤師は、薬や健康に関していつでも気軽に相談できる、かかりつけ薬剤師である。
- ・主治医や多職種と連携する、患家に訪問し生活背景等を把握する、などを通して、患者の生活支援を行う。
- ・生活支援を行うことで、真の意味で、服用薬を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導を実施できる。
- ・訪問を行うことで患者からの信頼感が増し、処方医へのフィードバックや残薬管理・服薬指導を行うことができる。薬の副作用や飲み間違い、服用のタイミング等に関しても、随時電話相談を受けやすくなる。
- ・薬剤師の新しい活躍の場である。

第3章 事業実施の効果と課題

1 効果

同行訪問（OJT）研修は、本気で在宅医療を根付かせようとする薬剤師の地域医療における活躍・言動を近くで見ること、座学では学ぶことができない、かかりつけ薬剤師につながる多くの知見を得ることができる研修である。この研修を通して、講師薬剤師と受講薬剤師がともに学ぶことで、かかりつけ薬剤師として両者が成長できる機会になった。在宅医療を経験していない薬剤師にとっては、前へ一歩踏み出すきっかけとなった。

在宅医療に応じられる薬局・薬剤師の育成は、一層推進する必要があるが、そのためには、医師や多職種のさらなる理解や協力が必要と考えられる。

2 課題と今後の取組み

今回の研修で地域医療へ貢献することの熱意、志の高さに感銘したとの意見もあり、在宅医療にこれまで以上に組みたいと考えている薬剤師は多い。そのモチベーションを下げないようなフォローアップを行うかが課題である。

一方、今まで経験がない薬剤師にとっては、「報告書の作成が大変である」、「外来よりも細かい配慮が必要である」、「一人ひとりに時間をかけて向き合えるか不安である」との声もあった。このことから、困難事例な

どに対処できる研修を継続して実施するとともに、わからないことをどこに相談したらよいのかを周知することも必要であると考えられる。

今後は、さらに緩和ケア・在宅看取りのできる薬剤師の育成も視野に、継続的・発展的な事業を実施する必要があるが、経営規模の小さい薬局において、在宅に対応できる薬剤師を育成することは、経営規模に比べて多大な経費や労力を要することとなる。

薬局・薬剤師を活用した在宅医療の推進を図るためには、薬剤師による在宅支援の必要性・有用性を確認の上、その業務を適切に評価した財政的支援や調剤報酬の改正が必要である。

第4章 資料

1 薬局リーフレット

在宅訪問薬剤師の育成に ご協力を

埼玉省委託事業
“平成28年度薬局のかかりつけ機能の強化事業”
～同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成～



◆事業内容◆

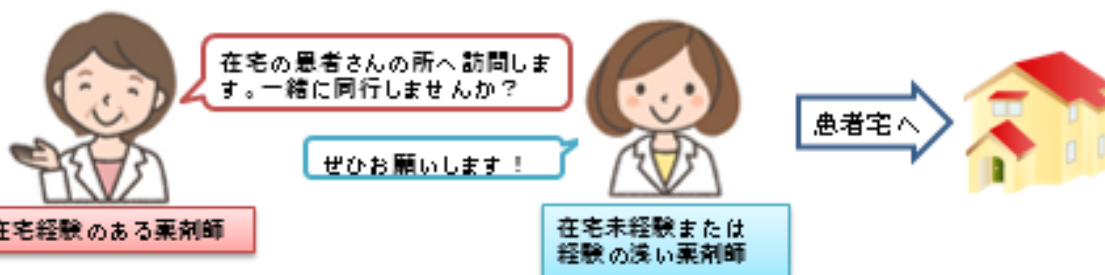
目的 在宅医療に対応できる薬剤師を育成する

概要 在宅訪問の経験がある薬剤師と未経験または経験の浅い薬剤師が同行し、経験者が指導・助言をする実践形式の研修
(イメージ:薬学生の実務実習)

在宅訪問薬剤師育成のため、指導・助言が可能な在宅経験のある薬剤師募集！ 報酬は同行者1名につき1万円

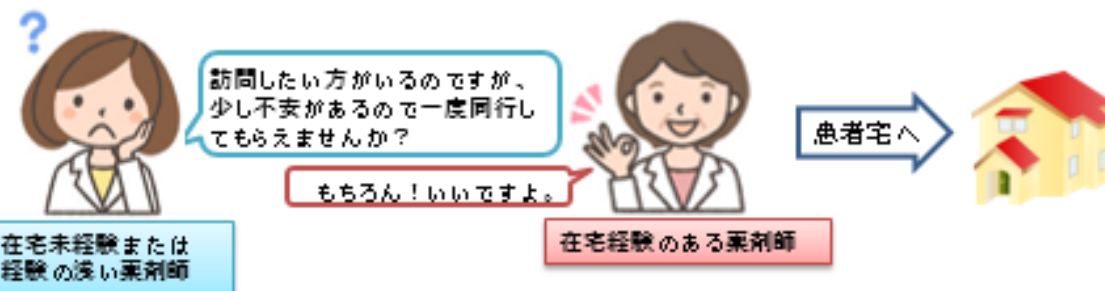
(1) 同行パターンA

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師の訪問に同行し、指導・助言を受ける。



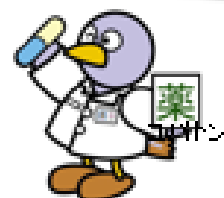
(2) 同行パターンB

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師に患者宅へ同行してもらい、指導・助言を受ける。
(未経験薬剤師が経験のある薬剤師の同行を希望するパターン)



OJT(同行訪問)の 受講者を募集します

埼玉県委託事業
“平成28年度薬局のかかりつけ機能の強化事業”
～同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成～



◆事業内容◆

目的 在宅医療に対応できる薬剤師を育成する

概要

在宅訪問の経験がある薬剤師と未経験または経験の浅い薬剤師が同行しあい、経験者が指導・助言をする実践形式の研修
(イメージ: ステップアップ講習会step1～3 ロールプレイの実践編)

(1) 同行パターンA

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師の訪問に同行し、指導・助言を受ける。



在宅経験のある薬剤師

在宅の患者さんの所へ訪問します。一緒に同行しませんか？

ぜひお願いします！



在宅未経験または
経験の浅い薬剤師

患者宅へ



(2) 同行パターンB

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師に患者宅へ同行してもらい、指導・助言を受ける。
(未経験薬剤師が経験のある薬剤師の同行を希望するパターン)



在宅未経験または
経験の浅い薬剤師

訪問したい方がいるのですが、少し不安があるので一度同行してもらえませんか？

もちろん！いいですよ。



在宅経験のある薬剤師

患者宅へ



2 OJT 報告書

OJT 報告書

報告者氏名				研修パターン		A B	
報告者所属薬局名				訪問先市町村			
受講者氏名				講師氏名			
実施日	月 日 ()	訪問先	年齢	才	性別	男・女	介護度
実習内容							
実施						備考	
<input type="checkbox"/> 契約書の交わし方 <input type="checkbox"/> 残薬の整理の方法 <input type="checkbox"/> 服薬管理方法の提案 <input type="checkbox"/> 服薬内容の検討 <input type="checkbox"/> 服薬状況の確認と体調の変化の確認 <input type="checkbox"/> 療養環境の把握 <input type="checkbox"/> 他のサービス内容の確認 <input type="checkbox"/> ケアマネの確認 <input type="checkbox"/> 嚥下状態の確認 <input type="checkbox"/> 報告書・薬歴の作成方法 <input type="checkbox"/> 医師やケアマネなど他職種とのかかわり方について <input type="checkbox"/> 残薬の保管方法 <input type="checkbox"/> 一部負担金の受け渡し方法 <input type="checkbox"/> 麻薬の適正使用(適宜) <input type="checkbox"/> 輸液の適正使用(適宜)							
<研修報告>							

3 OJT同行訪問実施後アンケート

OJT同行訪問実施後アンケート

実施：埼玉県薬剤師会

- このアンケートの目的は、在宅患者への同行訪問をしたことで、みなさんの意識や能力がどのように変化するかを調べ、その効果を確認することです。
- 全体をまとめて集計いたしますので、個人は特定されません。
- お名前や薬局名を記入する必要はありません。
- 本文中で在宅患者訪問薬剤管理指導とあるのは、居宅療養管理指導も含まれます。

A-薬剤師属性

Q1. 当てはまる性別をお選びください。

1. 女性
2. 男性

Q2. 当てはまる年代をお選びください。

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代
6. 70代以上

Q3. 当てはまる職種と()の中もお選びください。

1. 管理薬剤師 (本会会員 ・ 会員外)
2. 管理薬剤師ではない常勤薬剤師 (本会会員 ・ 会員外)
3. 非常勤薬剤師 (本会会員 ・ 会員外)

Q4. 薬局での勤務年数をお答えください。(当該薬局での勤務ではなく、今までの薬局での経験年数)
() 年。

Q5. これまでに、在宅患者訪問薬剤管理指導を行ったことがありますか。

1. ある・経験年数 (年前から 回/年くらい)
2. ない・その理由 ()

Q6. これまでに、無菌調剤を実施したことがありますか？

1. ある・場所 (現在の勤務薬局 ・ 他の薬局 ・ 病院)
2. ない。

B-薬局属性

Q1. 現在、勤務している薬局の所在地

()市町村()区

..

Q2. 現在、勤務している薬局の調剤基本料の区分

1. 調剤基本料1 2. 調剤基本料2 3. 調剤基本料3 4. 調剤基本料4 5. その他

..

Q3. 現在、勤務している薬局の薬剤師数を教えてください（常勤・非常勤は問いません。合計人数を記入）

(計)名

..

Q4. 現在、勤務している薬局の無菌調剤設備の状況を教えてください

1. 設備がある（無菌室・クリーンベンチ）
2. 設備がない（共同利用の契約はありますか？ あり・なし）

..

Q5. 現在、勤務している薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を行っていますか

1. 届出している
2. 届出していない

C-OJT 同行訪問行って、あなたの成果(変化)について、以下の問いにお答えください

Q1. 在宅訪問に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい

1. そう思った 2. ややそう思った 3. いままでと変わらない 4. わからない

..

Q2. 多職種との連携にこれまで以上に積極的に取り組みたい

1. そう思った 2. ややそう思った 3. いままでと変わらない 4. わからない

..

Q3. 患者の情報を把握する能力が向上した

1. 向上した 2. やや向上した 3. いままでと変わらない 4. わからない

..

Q4. 患者とのコミュニケーション能力が向上した

1. 向上した 2. やや向上した 3. いままでと変わらない 4. わからない

..

Q5. 患者家族等とのコミュニケーション能力が向上した

1. 向上した 2. やや向上した 3. いままでと変わらない 4. わからない

..

Q6. 多職種との連携する能力が向上した

1. 向上した 2. やや向上した 3. いままでと変わらない 4. わからない

Q7. 無菌調剤に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい。」

1. そう思った 2. ややそう思った 3. いままでと変わらない 4. わからない。」

..

Q8. 衛生材料等の供給に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい。」

1. そう思った 2. ややそう思った 3. いままでと変わらない 4. わからない。」

..

Q9. 在宅訪問したい、または心あたりのある方がいますか？。」

1. いる 2. いない 3. その他 ()。」

..

..

Q10. 在宅訪問を始めるにあたり、どんなことが必要だと考えますか？。」

..

..

..

..

..

..

Q11.在宅医療において、薬剤師にどのような役割が求められていると思いますか。。」

..

..

..

..

..

..

Q12.在宅医療を進める上で、今後どのような職種とどのような連携が必要であると思いますか。。」

..

..

..

..

..

D-その他のご意見(自由記載)。」

..

..

ご協力ありがとうございました。記入漏れがないか、今一度ご確認ください。」

4 在宅訪問薬剤師講師一覧

No.	市町村名	薬局名	氏名
1	さいたま市	コスモ薬局大宮	藤井 康子
2	さいたま市	サイトウ薬局浦和店	中越 昌子
3	さいたま市	サン&グリーン薬局	佐藤 彰浩
4	さいたま市	サン&グリーン薬局	中根 直子
5	さいたま市	サン&グリーン薬局だいたくぼ	向後 佑希
6	さいたま市	たから薬局北与野店	杉田 和代
7	さいたま市	パーク薬局	佐藤 きぬよ
8	熊谷市	熊谷市薬剤師会会営薬局 江南店	田島 敬一
9	熊谷市	熊谷市薬剤師会会営薬局 中西店	岸 稔
10	熊谷市	熊谷市薬剤師会会営薬局 石原店	杉田 幸恵
11	飯能市	ふれあい薬局	池田 里江子
12	狭山市	まごころ薬局入曽西口店	新井 裕子
13	草加市	くりの木薬局	山崎 あすか
14	草加市	一正堂薬局第二支店	須嶋 義夫
15	越谷市	弥生薬局	藤田 照子
16	戸田市	みやこ薬局 戸田店	玉岡 みはる
17	入間市	あすなろ薬局	金子 明美
18	新座市	かくの木薬局新堀店	矢口 泰子
19	新座市	かくの木薬局	武笠 真由美
20	新座市	木の実薬局	松永 みどり
21	久喜市	あおぞら薬局	加藤 大貴
22	久喜市	あおぞら薬局	藤田 裕介
23	富士見市	つばさ薬局	抜井 留理子
24	富士見市	つばさ薬局	城崎 彩子
25	蓮田市	コスモ薬局蓮田	長瀬 裕衣子
26	幸手市	SFC薬局	関谷 陽子
27	小鹿野町	おがの薬局	町田 一美